

千葉地域の農業の振興

千葉農業事務所改良普及課

地域農業を支える多様な担い手の育成・確保

- 1 新規就農者等の営農技術向上と就農定着
【農業経営体育成セミナー受講者 32 名、青年農業者等スキルアップ研修受講者 20 名】
・新規就農者の定着者数（セミナー修了者数）：12 名→23 名・認定農業者数：11 名→12 名
- 2 地域で活躍する女性農業者の育成とパートナーシップ型農業経営の推進
【管内若手女性農業者 58 名、ちば地区女性農業者ネットワーク会員 29 名、家族経営協定締結意向農家 3 戸】
・若手女性農業者のセミナー等修了者数：11 名→12 名
・家族経営協定締結数：36 戸→38 戸

持続性のある園芸産地づくり

- 3 秋冬にんじんを核とした園芸産地の維持
【JA千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会人参加部会 57 戸、JA千葉みらい土気地区出荷組合連合会人参加部会 17 戸】
・販売金額（東部・土気）：1.7 億円→1.7 億円、0.7 億円→0.7 億円・出荷量（東部・土気）：1,449t→1,550 t、688t→690 t・作付面積が 150 a 以上の担い手の数（東部+土気）7 戸→8 戸
- 4 県都市化の著しい地区での春夏にんじん産地の維持
【JA千葉みらい幕張地区出荷組合連合会人参加部会 16 戸、JA千葉みらい習志野市園芸部人参加部会 14 戸】
・春夏にんじん出荷量：733t→980t
・春夏にんじん販売額：0.89 億円→1.18 億円
・担い手の平均面積：65.8a→80a
- 5 都市地域条件を生かしたいちご経営体の育成
【千葉市いちご経営体 22 経営体】
・所得 550 万円以上の経営体数：6 経営体→7 経営体
- 6 だいこんの産地強化と地域をリードする経営体の育成
【JA市原市姉崎野菜組合 14 戸】
・出荷量：115 万ケース（1 ケース 10kg）11,500t →140 万ケース（1 ケース 10kg）14,000t
・販売額：10.1 億円→11.2 億円
- 7 県温暖化対策と改植促進によるなし産地の維持
【市原市農業振興協会果樹部梨部会 67 戸】
・温暖化に対応した栽培管理方法導入した生産者数：25 戸→28 戸
・主要な担い手の栽培面積：18ha→18.5ha



いちごの若手生産者を対象としたスキルアップ研修

- 8 県中核的生産者の規模拡大による春夏にんじん産地の維持
【JA八千代市人参部会員及び元部会所属の計 26 戸（うち 10 戸は研究部所属）】
・販売額：0.84 億円→1.03 億円
・出荷量：573 t→950 t
・研究部の平均栽培面積：59.1a→79.5a
- 9 県主要な担い手を核としたなし産地の維持
【八千代市梨業組合 54 戸、主要な担い手 26 名（研究部 19 名、研究部OB 7 名）、若手女性農業者 8 名】
・主要な担い手による栽培面積：31.7ha→31.8ha
・規模拡大農家戸数 2 戸→3 戸
- 10 県経営改善に取り組む花き経営体の育成
【大規模施設花き経営体 8 戸（千葉市 4 戸、市原市 2 戸、八千代市 2 戸）】
・販売金額 1,500 万円以上の花き経営体数：5 戸→6 戸

農業基盤を守る地域営農の仕組みづくりと経営体の育成

- 11 水稲経営体の経営安定化による地域水田の保全
【千葉市内水稲経営体 5 経営体】
・水稲経営面積：143ha→140ha
・主食用以外の米の作付面積：52.0ha→54.0ha
- 12 県水稲経営体の規模拡大と営農組織による農地維持
【市原市の水稲主業経営体 21 戸、市原市内の土地改良区等】
・水稲経営面積：578ha→600ha
・集落営農法人の設立組織数：4 組織→4 組織
- 13 県集落営農組織の育成と営農体制の強化
【八千代市水稲主業経営体 7 経営体、八千代市飼料用米生産・利用協議会のうちWCS用稲や飼料用米を生産する経営体 7 経営体、地域計画の策定を推進する地区 5 地区】
・八千代市水稲主業経営体の水稲経営面積：164.2a→167a
・低コスト・省力化技術（乾田直は、プール育苗等）の導入数：5 経営体→7 経営体

経営改善による畜産経営体の体質強化

- 14 県規模拡大や経営改善による畜産経営の安定化
【経営改善に意欲がある畜産経営体 26 戸（千葉市 cow 飼う会 7 戸、市原市ホルスタイン改良同志会 7 戸、市原養豚研究会 7 戸、八千代市酪農経営体 5 戸）、飼料作物生産組織 2 組織】
・経営改善実践農家：10 戸→11 戸
・新たな地域内飼料生産利用面積（WCS 用稲、高栄養・高収量作物）：25.3ha→26ha